令和2年度の会議で抽出された優先課題

資料第１号

在宅医療連携協議会の委員、オブザーバーからいただいた意見を共有し、大きく①住民に対する啓発・普及、②システムの整備・構築の取り組みに分けました。
①住民に対する啓発・普及は各団体が市と相談して取り組む。
②システムの整備・構築が必要であり、以下の項目の取り組みが重要であるとし、方向性が示されました。
★★番号2・5・7について、令和3年度、在宅医療連絡協議会で取り上げる課題に決まりました。(別シートで課題【1】【2】【3】に関連情報を記載しました。)
★番号9について、各団体にて取り組んでください。進捗状況を、次回会議で確認します。(別シートで課題【4】に進捗状況記入欄があります。)

番号	「地域課題の抽出結果について」から抜粋			委員による対策・アイディア （会議にて聞き取ったご意見も記入しています。微妙にご意見と違いがある可能性もあります。）	方向性
	項目1	項目2	地域課題		
1	社会資源の課題 医療		・精神面のフォローができる相談施設がない。 ・複合的疾患を抱えており医療機関の複数受診が必要な場合が困る。	もりメンタルクリニックと連携。統合失調症・自傷・他害・認知症の妄想の激しい方など情報共有。精神科の窓口。精神科病床整備。自治体に訴える。	協議会では難しい課題のため、医師会にあげていく。
★★2	社会資源の課題 介護	通所サービス	歩いて行ける通いの場、運動教室が少ない	健康づくりリーダーなど地域の人材や理学療法士等社会資源調査、活用の検討。より専門的な通いの場となる。	理学療法士等の派遣などを調査し、協議会にて検討する。
3	社会資源の課題 介護	訪問サービス	人員不足、市民主体サービスが少ない、育成機会がない。	複数の事業所で兼務を可能にする。ヘルパーの統括事務所、他業種からの副業促進、技能実習生の受け入れ、主婦や休業中（資格者）の方と利用者とのマッチング（生協：暮らしのたすけあいアプリ：イチロウ）→介護保険で補えないヘルパー 無償やボランティアではなく短時間でもいい仕事としてやる。	事業所自身が啓蒙。訪問連絡会の進捗を財間委員から木本委員に聞いてもらう。
4	住民・地域の課題	移動手段	買い物手段、通院手段、各種バスのルート	きたバスや医療機関巡回バスを買い物先への乗り入れる、ウーバー系、生協やショクブンなどの促進。	きたバスのダイヤ改正により今よりは便利になる。 高齢者を加味しているか協議会にて高齢福祉課が報告をする。
★★5	社会資源の課題 生活支援		・買い物ボラ、御用聞き、宅配スーパーがない、オンライン買い物、買い物代行支援がない。 ・担い手不足	・ウーバー系、生協やショクブンなどの促進。移動販売（とくし丸など）買い物協力者をマッチング（買い物のついでに近隣の方の買い物をする）、ICTで買い物支援。 ・市がサポート体制を作って人を集める。北名古屋市のファミリーサポートをお手本に。登録は必要。気軽にアプリ（タイミーのような）スキマアルバイト、隙間ボランティアなどいろいろなニーズにこたえれれる人材を集める。	生活支援の問題、協議会にて検討する
6	住民・地域の課題	家族・親族	認知症がBPSDへの対応に苦慮する。	地域包括支援センター、済衆館認知症疾患医療センター、在宅医療サポートセンターが協働で講演会等を開催することで、家族への周知、及び、地域全体の意識向上を図る。	家族への周知及び、地域全体の意識向上を図る。 認知症疾患医療センターのからみで少し待ってほしい。
★★7	住民・地域の課題	新型コロナウイルス関連	外出を控える傾向があり、フレイルになっている可能性　がある。	対象者に各々関わっている範囲でフレイル対策を講じるため、フレイルチェックを実施、フレイルと判定された方、または予備軍の方の情報を関係者で共有する体制を作る（本人から情報提供同意、関係者への周知等）	フレイルチェックを行うなど協議会にて検討する。
8	住民・地域の課題	移動手段	移送サービスの拡大	豊明市のチョイソコは現在全国10以上の行政に導入されており、乗り合いバスとタクシーを合わせたような使いやすさと地域の商業施設、医療介護施設の支援で成り立つ仕組みもニーズとコスト負担の観点でメリットがある。また、専門職向けとして、在宅訪問時の駐車場不足の問題に対して、小牧市の「ハートフルパーキング」はパーキングシェアモデルとして参考になる。地域貢献したい企業や個人と専門職の訪問調整の負担をへらすことで地域の有効資源とニーズを低コストでマッチングすることを期待している。いずれも民間資源を引き出す地域サービスとして活用されている。民間資源をどう引き出すが、行政や協議会がやればできるのでは。	チョイソコ（豊明市の取り組み）など高齢福祉課で情報を調べて次回報告を。視察に行っても良いのではないか。
★9	すべて			「今週のコロナニュース」（公立陶生病院）のような専門性の高い情報を電子＠連絡帳の広域連携を利用して共有、発信する。 コロナ対策だけでなく、予防の観点では口腔衛生、認知症予防、栄養指導、リハ/運動指導、補助など他の地域の専門職に情報発信を依頼、参加する方式が考えられる。外部の人材資源も活用しつつ、好きな時間で専門職のリテラシーアップを期待できる方法として応用活用が考えられる。 顔のわかる専門職が情報を発信する、あるいは広域連携で繋がった他地域の専門職にお願いすることはコスト負担も低く、効果が期待できる。	公立陶生病院の今週のコロナニュースのような専門性の高い情報発信を行う。 医師会や各団体 で検討していく。 進捗状況を、次回会議の1か月前に確認する。